

アスリートの育成と、 総合型地域スポーツクラブの運営

アスリートの育成と、 総合型地域スポーツクラブの運営



株式会社SEAS

代表取締役

木村 巨さん

1974年稚内市生まれ。1997年にスノーボード専門店「SEAMORE」を開業。2021年に株式会社SEAS代表取締役に就任。2022年、一般社団法人みどりスポーツクラブわっかないが設立され、理事長に就任する。

身を鍛え、豊かで明るいまちを築くことを目指している。その理念を受け継ぎ設立された、総合型地域スポーツクラブ「一般社団法人みどりスポーツクラブわっかない」の理事長に、木村氏が就任。稚内市みどりスポーツパークの運営を担い、地域住民のスポーツ活動をサポートしている。

アスリートの育成と、
総合型地域スポーツクラブの運営

稚内市に6人のプロスノーボード選手を擁するクラブチームがある。その「TEAM SEAMORE」を率いるのが木村巨氏だ。

キッズ向けスノーボードスクールを運営しながら、地元スキー場にジャンプ台を造るところから始め、全日本選手権大会で優勝するほどの実力ある選手を育ててきた。また、北海道スキー連盟スノーボード部の競技強化委員長、スロープスタイル・ビッグエア種目コーチ

を務め、日本各地を飛び回る。

稚内市は1981年にスポーツ都市を宣言した。スポーツを通じて、市民が心



▲木村氏の経営するスノーボード専門店SEAMOREは創業27年になる

観光都市としての稚内市に
アスリートの活躍の場をつくる

木村氏のもうひとつの顔が浜勇知展望休憩施設(こうほねの家)、大沼野鳥観察館、坂の下水水浴場の指定管理者である。スポーツ活動の立役者といえる木村氏が、なぜ、観光業へと進出したのだろうか。

きっかけは、アスリートのセカンドキャリアと稚内市の就業人口不足である。所属選手をはじめ各種スポーツ選手の進路を考え、ガイド業にたどり着く。競技に打ち込んできた選手たちは総じて「体力はもろろん、チームワーク力、戦略力、コミュニケーションに優れ、礼儀正しい。そしてアウトドアが好き」だから、アウトドアガイドに向くと考えたのだ。一方、ガイド業にも課題がある。



▲大沼カナディアンカヌー体験(約50分)。目を閉じて、視覚以外で感じる時間をつくる

ガイド業に挑戦!
木村流カヌーツアーとは

木村氏がガイドを務めるのが「大沼カナディアンカヌー体験」だ。「大沼はコハクチョウなど渡り鳥の飛来する季節を除くと、風の音とカヌーを漕ぐパドルの音しか聞こえない」。その「何もない時間」こそが稚内らしい魅力だと、木村氏。実際に「お客様の多くが、家族や友人とのんびりとした静かな環境を求めて大沼に来てくださる」。

だからあえて言葉を発せず、自然の音と風を感じてもらおう時間を設ける。また、観光客の心理に寄り添うガイドを心がける。なぜなら、「アンションが高めの旅の前半と、興奮も冷め、疲労を感じ始める旅の後半では、知りたい情報も異なる」からだ。

大沼の極寒テントサウナと
稚内市の再来訪率アップ

極寒の大沼のほとりでテントサウナを楽しむ体験型観光「大沼バーニャビレッジ」。昨年度の実証実験では2週間の期間中に100人が訪れた。そのアンケート結果をもとに、改善を図り、2024年度から本格的に事業化する。

この冬の最後の実証実験では、新たにバレルサウナとグランピング用のドームテント、シャワールームとドレッシングを備えたトレーラーを用意して、より質の高いおもてなしを追求する。サービスの拡充により、稚内観光の課題である再来訪率の向上を狙うが、気負いはない。適材適所の人材配置ができれば、大抵の課題は乗り越えていけるはずですし、何しろ、稚内には無限の可能性がありますから」と、木村氏は笑顔を見せた。



▲「大沼バーニャビレッジ」は、わっかない観光活性化促進協議会との協業で実施した

(文責) 一條亜紀枝